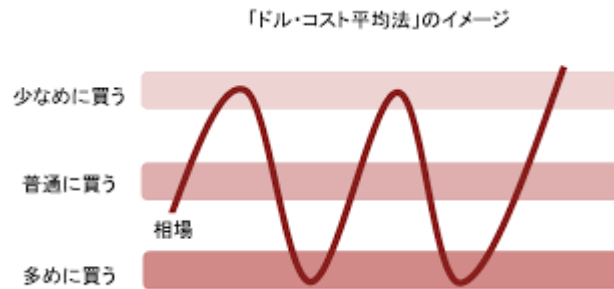


(正しい「成り行きへの任せ方」人生のドルコスト平均法)



一定速度で歩み続ける。

きわめて安定しているように見えます。変わらず一定だからです。安心感もあります。そのため、一定速度で歩み続けることが特に実業の世界では珍重されたりもします。

ところが、実は一定速度で歩み続けるのは大変な事なのではないでしょうか。平均値ではないので、調子のいいときは落とさなくてはならないし、悪いときは無理をしなくては一定には進めません。

そうなってくると、一定速度で進むというのは、遣っている本人にとっていいことなのか？理にかなった行動なのか？疑問になってきます。

投資の世界で、ドルコスト平均法というのがあります。

これは、毎月一定額を投資するやり方なのですが、例えば金（きん）が高い時には少なめに買い、安くなると多めに買うと言う手法で、結果、長期的にみれば、これが最も無理や負担が少なく安定して右肩上がりの投資成果実績を上げることが出来るというのです。

もしこれを人生の歩みに当てはめるなら、元気なときは可能な限り先へ進めるだけ進み、あまり元気がないときには、これまた無理のない範囲でペースダウンして進めるだけ進むにとどめる。

つまり両方とも「進めるだけ進むと言うこと」は一定にして、そのペースを状態に合わせて速度コントロールするわけです。

これだと、押さえるストレスもたまらないし、無理に飛ばすストレスもたまりません。要するに速度を一定にするのか？消費エネルギー対速度の比率を一定にするのかの違いです。消費エネルギーと速度を費用対効果に置き換えると、単に速度だけで見ると、より効率的効果的な人生を歩むことが出来るように思います。

一言で言うと「ことの成り行きに自分の状態を合わせてそれに任せる」と言うことです。更に付け加えれば、一定に、という周りからの目より、自分の実状態をより重んじた方がいいですよということも言えるかと思います。